



保土谷化学

第156期 株主通信

2013年4月1日～2014年3月31日

BUSINESS REPORT

Your Dream Is Our Business 化学で夢のお手伝い

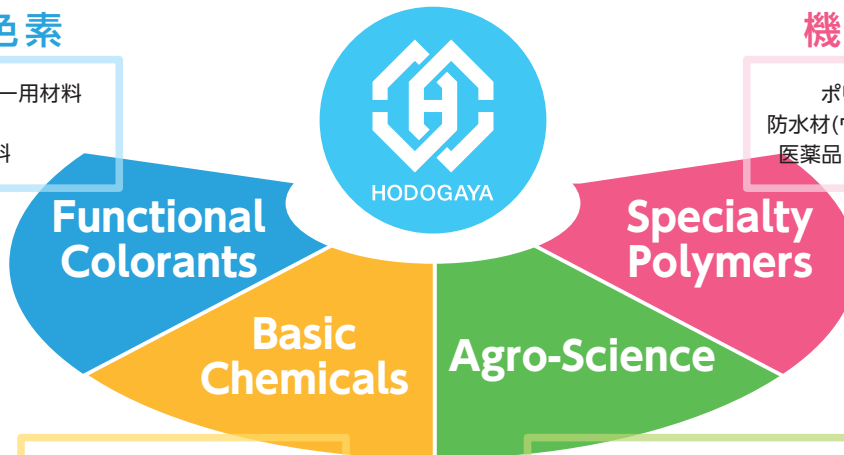
私たちは、化学技術の絶えざる革新を通じ、
お客様が期待し満足する高品質の製品・
サービスを世界に提供し、環境調和型の
生活文化の創造に貢献します。

事業概要

保土谷化学グループの特長は、機能性色素・機能性樹脂・基礎化学品・アグロサイエンス・
物流などの各分野で、グループ企業各社が高いスペシャリティを持っていることです。
研究開発・生産・販売が三位一体となり、お客様の多種多様なニーズに対して、スピー
ディに高品質の製品やサービスを提供してまいります。

機能性色素

コピー機・プリンター用材料
各種染料
有機EL材料



過酸化水素および周辺製品

基礎化学品

除草剤、殺虫剤、植物成長調整剤

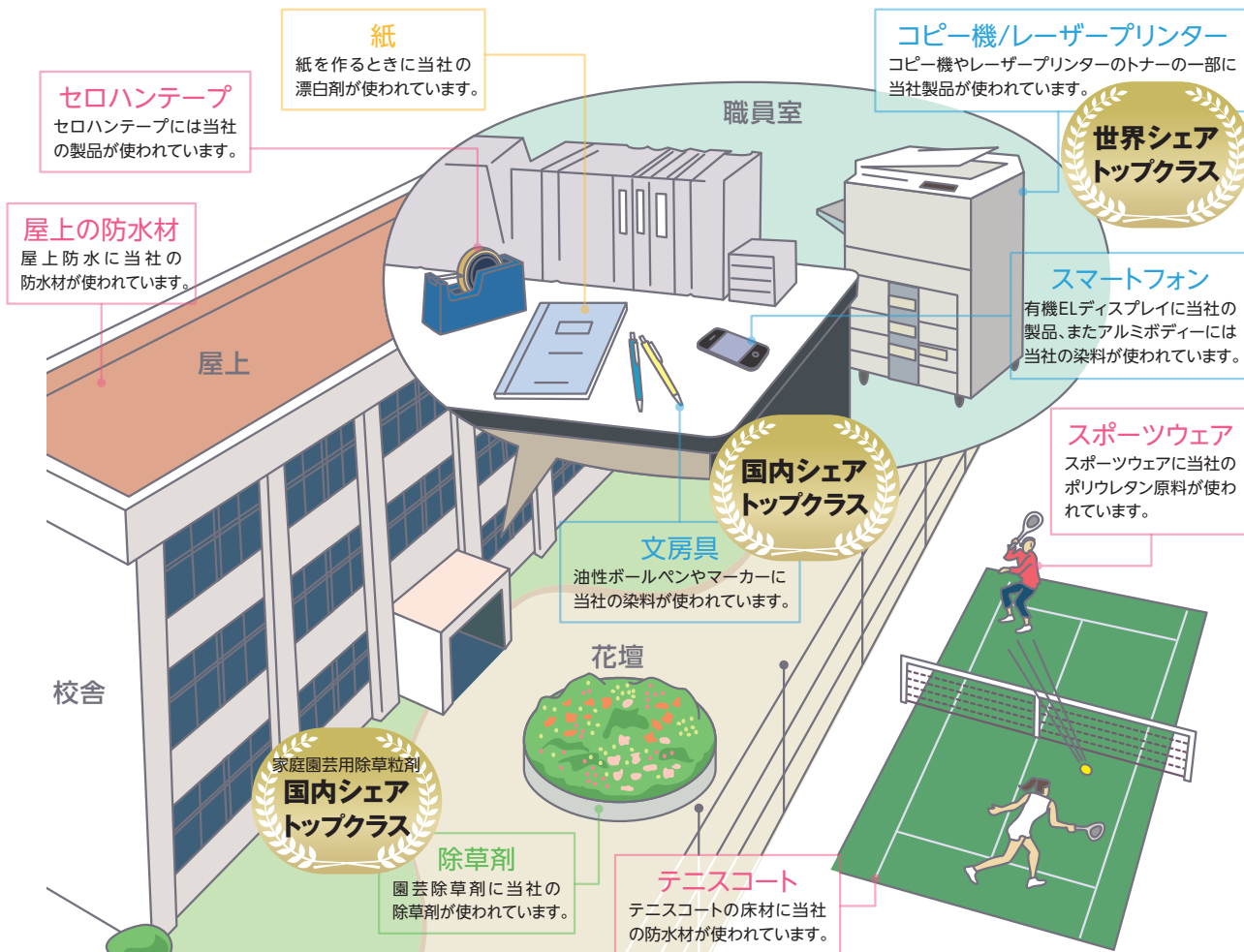
アグロサイエンス

機能性樹脂

ポリウレタンの原料
防水材(ウレタン系、セメント系)
医薬品・農薬などの中間材料

化学は、暮らしや社会の基盤となる、様々な材料を創り出す技術です。

ファッションや食品、家具や住まい、医薬品や最先端のIT機器にいたるまで、化学のちからが支えているのです。保土谷化学グループは、創業以来97年以上にわたって、高度な化学技術で時代のニーズや未来の夢をかたちにしてきました。その一部をご紹介します。



着実かつ積極果敢な施策の遂行を通じて 今後の成長を強固に支える体制を整えました。



保土谷化学工業株式会社
代表取締役社長

喜多野利和

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2016年に創業100周年を迎える当社グループは、2011年度より今後の成長を強固に支える体制整備を完了させるべく、中期経営計画“HONKI 2013”を推進してまいりました。その最終年度となる2013年度は、依然厳しい経営環境でありましたが、創業100周年の「ありたき姿」を見据え、基盤事業の強化や事業拡大などに向けた様々な施策に取り組みました。

ここに2013年度（2013年4月1日～2014年3月31日）の業績および今後の見通しについてご報告いたします。

2014年 6月

2014年3月期連結業績サマリー

(前年同期比)

□売上高	356億87百万円	+1.4%
□営業利益	34百万円	△96.2%
□経常利益(△損失)	△3億10百万円	—
□当期純利益(△損失)	△12億71百万円	—

当期の業績について

中期経営計画の最終年度として
様々な施策に取り組んでまいりました。

2013年度の経済環境を振り返りますと、日本国内においては、政府による財政・金融政策、また消費増税前の駆け込み需要などによって個人消費の拡大や雇用状況の改善などが促され、緩やかな回復となる一方、円安による原材料・燃料の高騰などを背景に、先行き不透明な状況が続きました。

このような情勢のもと、当社グループが2011年度より3年間にわたって取り組んできた中期経営計画“HONKI 2013”（Hodogaya as **O**nly one, **N**umber one with our **K**ey technology and **I**magination）が、締めくくりの年を迎えました。この“HONKI 2013”の達成に向けて、基盤事業では、過酸化水素およびその周辺製品の強化を図るために、日本パーオキサイド(株)を合併いたしました。それにより、郡山工場のコスト削減を進めました。また成長事業では、有機EL材料事業の更なる展開を図るために、SFC社

（大韓民国）の生産体制の増強を行いました。

当期の連結売上高は、前期比4億96百万円増の356億87百万円となりました。

有機EL材料事業・過酸化水素事業については、価格競争の激化により減少したものの、樹脂材料事業・建築材料事業・特殊化学品事業については需要が増加し、アグロサイエンス事業については家庭園芸用除草剤が好調に推移したため、増収となりました。

損益面では、コストダウンの寄与がありましたが、円安による原材料・燃料価格の高騰や研究費の増加等により、営業利益は前期比8億64百万円減の34百万円となりました。また経常損失は3億10百万円（前期は経常利益6億11百万円）、当期純損失はカーボンナノチューブ開発推進に関わる特別損失の計上等により、12億71百万円（前期は当期純損失90百万円）となりました。

なお、当期の配当金につきましては、業績動向、将来の事業展開、不測のリスク等を総合的に勘案し、期末配当金を1株当たり2円とし、中間配当金2円と合わせ、年間では4円とさせていただきます。

2014年3月期決算のポイント

□POINT①	機能性樹脂・アグロサイエンスセグメントにおいて、需要が増加したために増収。
□POINT②	機能性色素・基礎化学品セグメントにおいて、競争の激化により減収。
□POINT③	営業利益は、原材料・燃料価格の高騰や研究費の増加などにより減益。 当期純利益は、カーボンナノチューブの特別損失などにより減益。

中期経営計画の総括

数値目標は未達ながらも、今後に向けた
「種まき」を完了することができました。

創業100周年を迎える2016年にありたき姿である、「グローバル・ニッチ分野で、オンリーワン・ナンバーワン素材を提供し続ける企業」に向けて、当社グループでは、2011年度より中期経営計画“HONKI 2013”（**H**odogaya as **O**nly one, **N**umber one with our **K**ey technology and **I**magination）に取り組んでまいりました。この“HONKI 2013”は、2013年度までに今後の成長を強固に支える体制整備を完了させ、各事業（基盤・成長・育成・新製品創出）の強化を図っていくための計画で、最終年度となる2013年度も様々な経営施策を実施してまいりました。

“HONKI 2013”では、「基盤事業の強化」「事業拡大／新製品の創出」「グローバル運営体制の一層の強化」「企業体質の強化」を重点的に進めるため、多岐にわたる経営施策を実施しました。しかし、当社グループの事業を取り巻く経営環境は当初の想定以上に急速に厳しさを増し、その結果、3年の間に当社グループの業績は大きく低迷・悪化するに至りました。

こうした極めて厳しい状況の中、それぞれの施策の効果を取り込むまでには、当初の想定以上に長い時間を要したことから、数値（売上）目標は残念ながら未達に終わりました。一方、この3年間で当初より計画していた施策を予定通り実施することができました。

●基盤事業

イメージング材料や過酸化水素などの既存製品について、精力的にコストダウンを進めました。保土谷ロジスティックス(株)では、横浜営業所（当社横浜工場内）に危険物倉庫を増設し、危険物物流事業の更なる展開に向けた体制が整いました。また、過酸化水素およびその周辺製品の強化を図るため、2013年7月に日本パーオキサイド(株)を合併しました。

●成長事業

有機EL材料事業の更なる展開を図るため、研究開発体制を強化するとともに、SFC社との連携を一層強化し、さらには同社の生産体制の増強も行いました。また、イメージング材料事業においては、高性能で環境に配慮した新規CCA（トナー用電荷制御剤）の製造設備を新設しました。インクジェットプリンター用染料、カラートリートメント用染料においては、ユーザーと連携を密にしながら製品開発に取り組み、上市しました。

2015年3月期の見通し

●育成事業

既存製品の知見を活かした事業展開として、プロジェクトを通してカラー用CCA、トナー周辺材料や新規ポリオールの開発に取り組みました。

●新製品創出

当社の筑波研究所内に「新規テーマ探索プロジェクト」を発足し、国の機関や大学などと情報交換しながら、“環境”と“エネルギー”をキーワードに様々な研究テーマに取り組みました。

●企業体質・グローバル体制の強化

2012年5月にグループの本社機能を集約し、グループ一体運営を推進しました。また、韓国・上海に現地法人を設立し営業力を強化するとともに、インドのJai Research Foundationと業務提携を行うなど、様々な角度から企業体質の強化を図りました。

2016年の創業100周年に向け、今後はこれまで実施してきた各種施策の効果を確実に取り込み、販売増、収益増、スピードアップを図るとともに、施策実施によって増えた負担の自助努力による吸収に努め、「グローバル・ニッチ分野で、オンリーワン・ナンバーワン素材を提供し続ける企業」という“ありたき姿”を、目指して邁進してまいります。

グループ全体の“再建の年”と位置付け、
強い決意で黒字化を目指します。

ここ数年にわたって当社グループの各事業を取り巻く経営環境は極めて厳しい状況にあり、2013年度も誠に不本意ながら2期連続の赤字決算という結果に終わりました。

2014年度は“再建の年”と位置付け、更なる営業努力やコストダウンの推進、研究開発分野における選択と集中およびスピードアップによる新製品の上市、人材のグローバル対応や技術継承などに鋭意注力しながら、安全を第一とした中で黒字転換へ向けて邁進してまいります。

2014年度通期の連結業績予想は、売上高365億円（前期比2.3%増）、営業利益6億円、経常利益1億50百万円、当期純利益1億円を見込んでおります。また、年間配当金につきましては、1株当たり4円を予定しております。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

■2015年3月期連結業績予想■

□売上高	365億円
□営業利益	6億円
□経常利益	1.5億円
□当期純利益	1億円

機能性色素



当期の概況

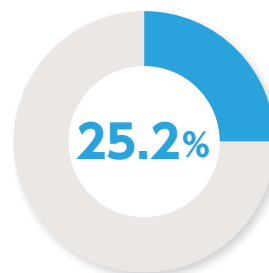
イメージング材料事業は、プリンター向け材料の需要の低迷が継続するものの、円安効果もあり、前期並みとなりました。

色素材料事業は、新たに上市したカラートリートメント用染料の寄与があったことに加え、アルミ着色用染料では在庫調整に進展が見られ、スマートフォン向けは好調だったものの、小型デジタル家電向けの低調が継続し、前期並みとなりました。

有機EL材料事業は、競争の激化が継続しており、加えて、前期に子会社の決算期変更に伴う一時的な増加があったため、減収となりました。

以上の結果、売上高は89億93百万円、営業損失は12億4百万円となりました。

セグメント別売上高比率



●売上高

89億93百万円

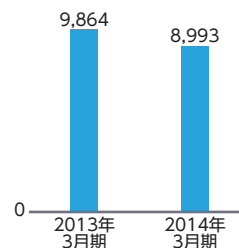
(前期比8.8%減)

●営業利益(△損失)

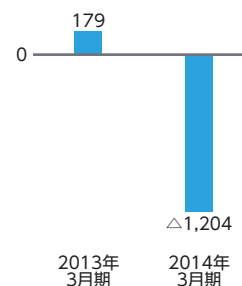
△12億4百万円

(前期比—)

売上高(百万円)



営業利益(△損失)(百万円)



事業	用途
イメージング材料	トナーの重要な添加剤であるCCA(電荷制御剤)、コピー機・プリンターの心臓部品であるOPC(有機光導電体)ドラム用の材料、インクジェットプリンター用の染料
色素材料	アルミ着色用および文具用の染料、カラートリートメント用染料、食品添加物
有機EL材料	有機ELディスプレイ・照明の主要材料(正孔輸送材料・電子輸送材料・発光材料)

機能性樹脂



当期の概況

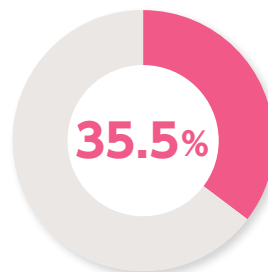
樹脂材料事業は、PTG（ポリウレタン原料）が、堅調に推移し、また、接着剤も海外での需要が大きく伸びたため、増収となりました。

建築材料事業は、消費増税前の一部駆け込み需要があり、ウレタン系防水材の材料販売と防水工事が好調で、増収となりました。

特殊化学品事業は、樹脂関連・医薬品・受託分野のいずれも需要が好調で、増収となりました。

以上の結果、売上高は126億61百万円、営業利益は3億56百万円となりました。

セグメント別売上高比率



●売上高

126億61百万円

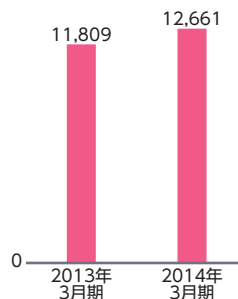
(前期比7.2%増)

●営業利益

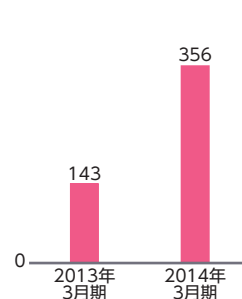
3億56百万円

(前期比149.0%増)

売上高(百万円)



営業利益(百万円)



事業	用途
樹脂材料	PTG(ポリウレタン原料)、接着剤、剥離剤
建築材料	ウレタン系防水材 (ビルや立体駐車場の屋上 ほか) セメント系防水材・止水材 (下水場、浄水場、地下ピット ほか)
特殊化学品	医薬品・農薬・樹脂関連・電子材料などの中間材料

基礎化学品



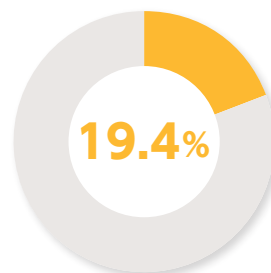
当期の概況

過酸化水素は、主力の紙パルプ分野で、円安により一部需要が回復し、また、工業薬品向けも好調に推移しましたが、動物用医薬品の需要が減少したことにより、前期並みとなりました。

過酸化水素誘導品は、競争の激化により、減収となりました。

以上の結果、売上高は69億29百万円、営業利益は56百万円となりました。

セグメント別売上高比率



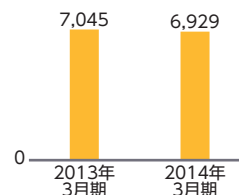
●売上高

69億29百万円
(前期比1.6%減)

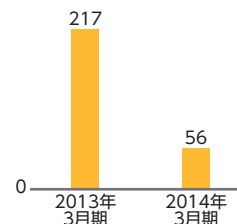
●営業利益

56百万円
(前期比74.2%減)

売上高(百万円)



営業利益(百万円)



事業

工業薬品
(過酸化水素)

用途

紙パルプ・繊維などの漂白剤、土壌処理などの環境浄化剤、養殖魚の寄生虫駆除剤 ほか

用語解説 養殖魚の寄生虫駆除剤

サカナガードは、薬事法に定められた動物用医薬品(水産用)です。フグ目魚類(トラフグ等)、スズキ目魚類(カンパチ、ブリ、マダイ等)に付着するハダ虫、エラ虫等の外部寄生虫駆除剤として認可された薬剤で、主成分は過酸化水素です。養殖場において、海水を利

用した簡単な薬浴方法で外部寄生虫を効果的に駆除します。

分解すると酸素と水になるため、海を汚すことなく、健康な魚を育てることができます。

アグロサイエンス

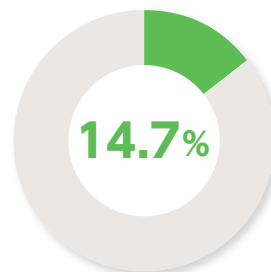


当期の概況

アグロサイエンス事業は、家庭園芸用並びに芝生用除草剤が好調に推移したことにより、増収となりました。

以上の結果、売上高は52億59百万円、営業利益は3億86百万円となりました。

セグメント別売上高比率



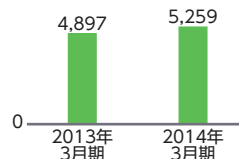
●売上高

52億59百万円
(前期比7.4%増)

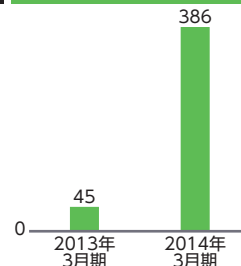
●営業利益

3億86百万円
(前期比757.8%増)

売上高(百万円)



営業利益(百万円)



事業

農業

用途

非農耕地・ゴルフ場・緑地管理分野などの
除草剤・殺虫剤・植物成長調整剤 ほか

ホームページ「あなたの周りの保土谷化学」

日常の中で当社グループの製品がどのようなものに使われているのか、イラストでわかりやすくご紹介しています。当社ホームページ「あなたの周りの保土谷化学」をぜひご覧ください。

<http://www.hodogaya.co.jp/>

ここを
クリック



あなたの周りの
保土谷化学



連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前 期 (2013年3月31日現在)	当 期 (2014年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	23,057	20,815
固定資産	28,707	30,110
有形固定資産	23,009	23,279
無形固定資産	1,888	1,528
投資その他の資産	3,810	5,303
資産合計	51,765	50,926

Point
1

Point 1 資産合計

資産合計は、現金及び預金の減少、たな卸資産の減少、投資有価証券の増加などにより、前期末比8億38百万円減少の509億26百万円となりました。

Point 2 負債合計

負債合計は、その他の流動負債の減少、繰延税金負債の増加、短期・長期借入金の減少などにより、前期末比7億54百万円減少の217億74百万円となりました。

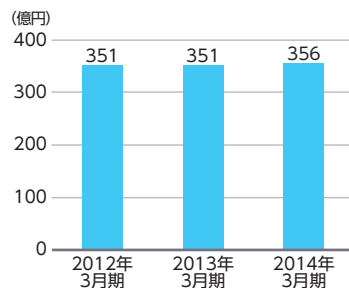
(単位:百万円)

科 目	前 期 (2013年3月31日現在)	当 期 (2014年3月31日現在)
負債の部		
流動負債	14,480	12,423
固定負債	8,048	9,351
負債合計	22,528	21,774
純資産の部		
株主資本	24,453	22,861
資本金	11,196	11,196
資本剰余金	9,590	9,589
利益剰余金	5,358	3,770
自己株式	△1,691	△1,695
その他の包括利益累計額	3,002	4,093
新株予約権	72	51
少数株主持分	1,707	2,144
純資産合計	29,236	29,151
負債純資産合計	51,765	50,926

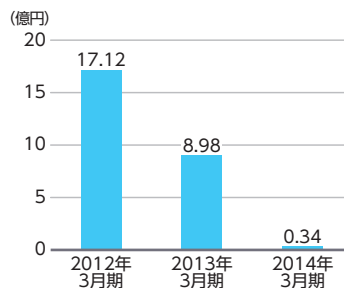
Point
2

連結業績の推移

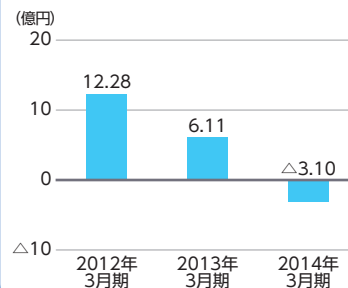
売上高



営業利益



経常利益(△損失)



■ 連結損益計算書(要旨) ■

(単位:百万円)

	科 目	前 期 (2012年4月1日～ 2013年3月31日まで)	当 期 (2013年4月1日～ 2014年3月31日まで)
Point 3	売上高	35,191	35,687
	売上原価	24,084	25,094
	売上総利益	11,106	10,593
	販売費及び一般管理費	10,208	10,559
Point 4	営業利益	898	34
	営業外収益	446	338
	営業外費用	733	683
	経常利益(△損失)	611	△310
	特別利益	436	321
	特別損失	108	679
	税金等調整前当期純利益(△損失)	939	△668
	法人税等	512	277
	少数株主損益調整前当期純利益(△損失)	426	△945
	少数株主利益	517	325
	当期純利益(△損失)	△90	△1,271

■ 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) ■

(単位:百万円)

科 目	前 期 (2012年4月1日～ 2013年3月31日まで)	当 期 (2013年4月1日～ 2014年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,616	2,861
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,020	△3,800
財務活動によるキャッシュ・フロー	△160	△423
現金及び現金同等物に係る換算差額	329	231
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,235	△1,131
現金及び現金同等物の期首残高	6,557	5,321
現金及び現金同等物の期末残高	5,321	4,190

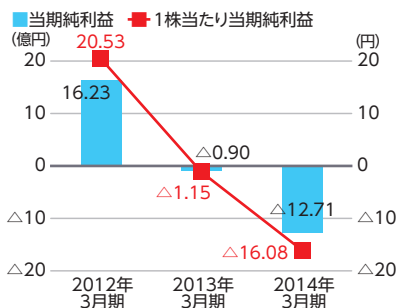
Point 3 売上高

売上高は、有機EL材料事業が価格競争の激化等で減少したものの、樹脂材料事業、特殊化学品事業が好調に推移したことにより、前期比4億96百万円増(1.4%増)の356億87百万円となりました。

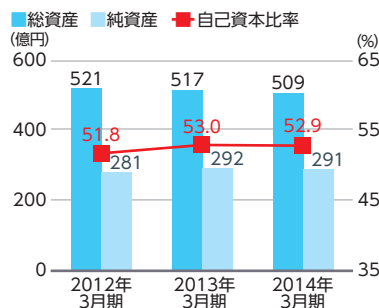
Point 4 営業利益

営業利益は、コストダウンの寄与がありましたが、原材料・燃料価格の高騰等により、前期比8億64百万円減(96.2%減)の34百万円となりました。

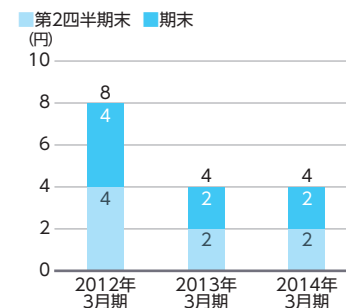
純利益(△損失)



総資産・純資産



1株当たり配当金



■ 保土谷コントラクトラボ、インドのJRFと業務提携 ■

2014年4月、当社グループの保土谷コントラクトラボ(株) (以下HCL) は受託試験業務の拡大を目指して、インドのJai Research Foundation (以下JRF: ジェイ研究財団) と業務提携を行い、保土谷化学とJRFグループの合併会社として、社名を「保土谷JRFコントラクトラボ(株) (以下HJC)」と変更しました。

JRFの得意分野であり、旧HCLでは補完関係にある動物を使った安全性試験分野の「ターゲット顧客の調査と選定」「展示会への出展」など、当面は対象業種を「農薬」「医薬」「化学」に絞り込んだ営業活動に注力しながら、HJCとJRFの人材交流や技術交流にも徐々に取り組んでまいります。



■ 中国に現地法人、保土谷(上海)貿易有限公司設立 ■

2014年4月、当社は中国・上海市に現地法人、「保土谷(上海)貿易有限公司」を設立いたしました。

当社では1997年に上海事務所を開設して以来、およそ17年間にわたって、中国における顧客関係の構築や情報収集活動に取り組んでまいりました。今回の設立によって、「連絡事務所」から販売機能を有する中国現地の「営業活動拠点」へと機能の強化・拡充を図り、より現地に密着した迅速な営業活動の展開に努めてまいります。



保土谷化学の100年

■ 連載第2回—1945(戦後)～1970年

戦後の混乱期を乗り越えて 新製品開発と事業の多角化を推進

戦後の混乱期、当社はその舵を再び民需産業へと向けます。人工甘味料や医薬品の生産でひと息ついて朝鮮動乱などによる経済効果に乗ると、染料や工業薬品を中心に復活を果たし、1950年頃からは農薬や亜塩素酸ソーダの生産を開始しました。

また新製品開発にも乗り出し、1954年にはMDI（後に設立した日本ポリウレタン工業(株)で世界規模に成長した主力製品）の製造を日本で初めて開始しました。また、電解による塩素を利用したパラジクロロベンゼンの生産を、郡山工場で大規模に立ち上げました。

1950年代後半には化学療法剤の供給で結核撲滅に大きく寄与したほか、現在も主力となっているスピロン染料の製造を開始しました。この頃には、電解の主力は郡山工場に移り、水銀法による苛性ソーダの生産を開始しています。1963年には新製品開発をさらに充実させるべく、東京都北区王子に中央研究所を開設しました。また同年、日本パーオキサイド(株)を設立し、1966年に過酸化水素の製造を開始しました。

1967年にはニューヨーク事務所を開設し、建材事業の原点となるウレタン系防水材も上市。工業薬品系では芳香族塩素化物への展開が活発化し、染料系では1968年に主に食用色素の製造販売を行う(株)アイゼンを設立するなど、事業の多角化を進めてきました。

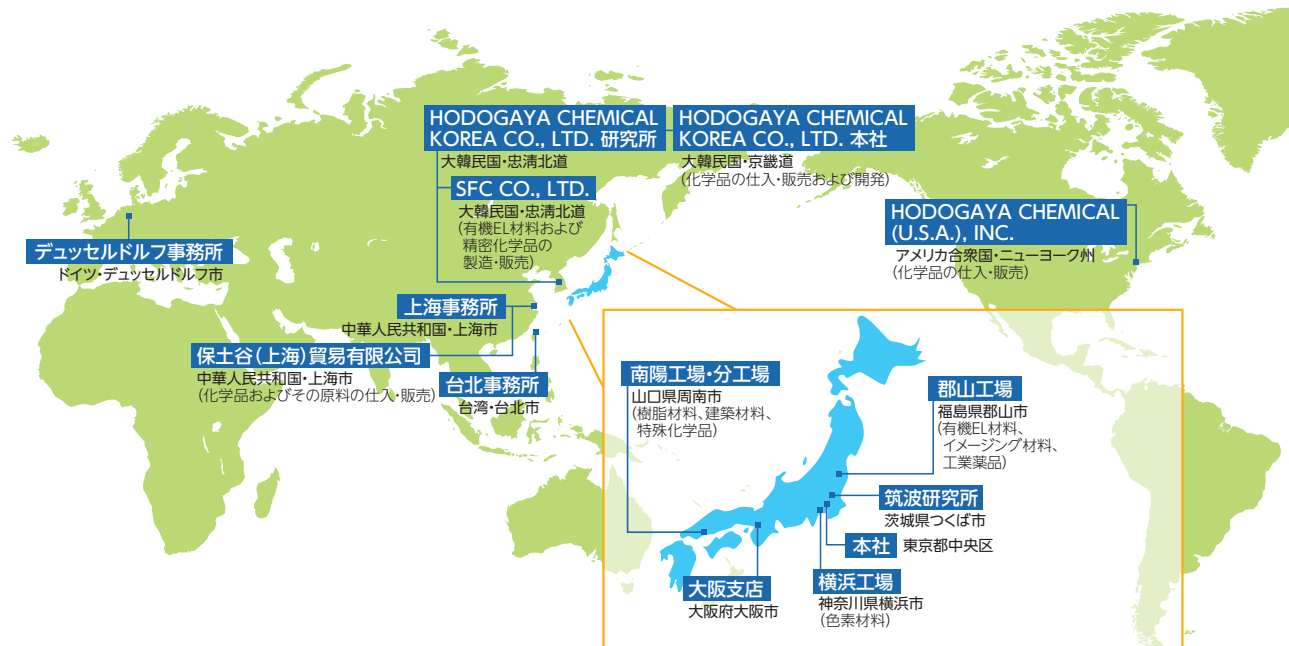


農薬(クサトール)



パラジクロロベンゼンの製造開始

- 1949年 東京、大阪、名古屋、
各証券取引所に上場
- 1950年 農薬 製造開始
- 1954年 日本初のポリウレタン原料
MDI製造開始
- 1959年 カチロン染料、スピロン染料
製造開始
- 1960年 日本ポリウレタン工業(株)
設立
- 1963年 日本パーオキサイド(株)設立
中央研究所 開設
ポリウレタン原料PTG
製造開始
- 1966年 過酸化水素 製造開始
- 1967年 日本初のウレタン系防水材
製造開始
ニューヨーク事務所開設
(1986年現地法人化
HODOGAYA CHEMICAL
(U.S.A.), INC.)
- 1968年 (株)アイゼン設立



グループ会社

(当社の出資比率)

機能性色素

SFC CO., LTD. (大韓民国)

有機EL材料および精密化学品の製造・販売 51.9%

HODOGAYA CHEMICAL KOREA CO., LTD.

化学品の仕入・販売および開発 85.0%

機能性樹脂

保士谷バンデックス建材(株)

土木・建築材料の製造・販売 100.0%

基礎化学品

共同過酸化水素(株)

過酸化水素の製造 25.0%

アグロサイエンス

保士谷UPL(株)

農薬の製造・販売 60.0%

保士谷アグロテック(株)

農薬の製造・販売 80.0%

他グループ会社1社

その他

桂産業(株)

化学品の仕入・販売 100.0%

HODOGAYA CHEMICAL (U.S.A.), INC.

化学品の仕入・販売 100.0%

保士谷(上海)貿易有限公司

化学品およびその原料の仕入・販売 100.0%

保士谷ロジスティックス(株)

倉庫業、貨物運送取扱業 100.0%

保士谷JRFコントラクトラボ(株)

化学品の分析および研究・開発業務受託 87.6%

他グループ会社2社

会社概要 (2014年3月31日現在)

社 名 保土谷化学工業株式会社

英 文 社 名 Hodogaya Chemical Co., Ltd.

本社所在地 〒104-0028
東京都中央区八重洲二丁目4番1号
常和八重洲ビル

T E L 03-5299-8000 (大代表)

F A X 03-5299-8250

設 立 1916 (大正5) 年12月15日

資 本 金 111億96百万円

従 業 員 758名 (連結)、505名 (個別)

役員 (2014年6月26日現在)

代表取締役社長 兼 社長執行役員	喜多野利和	取 締 役	江守新八郎
取 締 役 兼 専務執行役員	蛭子井 敏	取 締 役 (社 外)	加藤 周二
取 締 役 兼 常務執行役員	湯沢 和好	常勤監査役	廣田 秀世
取 締 役 兼 常務執行役員	村上 政徳	常勤監査役 (社 外)	奥平 卓司
取 締 役 兼 常務執行役員	阿部 嘉彦	監 査 役 (社 外)	櫻井 琢平
取 締 役 兼 常務執行役員	堀切 良浩	監 査 役	三柴 英嗣

株式の状況 (2014年3月31日現在)

発行可能株式総数 200,000,000株

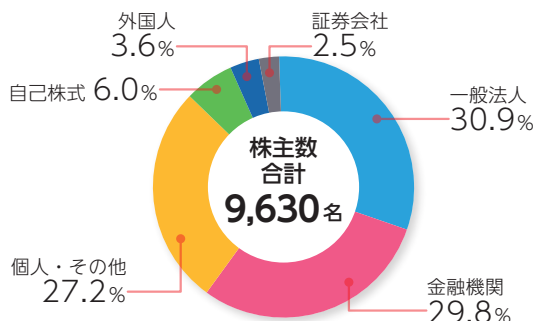
発行済株式の総数 84,137,261株

株 主 数 9,630名

大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	出資比率 (%)
東ソー(株)	16,828	20.0
保土谷化学工業(株) (自己株式)	5,054	6.0
(株)みずほ銀行	2,987	3.6
農林中央金庫	2,274	2.7
明治安田生命保険(相)	1,645	2.0
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	1,571	1.9
(株)東邦銀行	1,483	1.8
三井住友海上火災保険(株)	1,414	1.7
(株)山口銀行	1,300	1.5
(株)三菱東京UFJ銀行	1,201	1.4

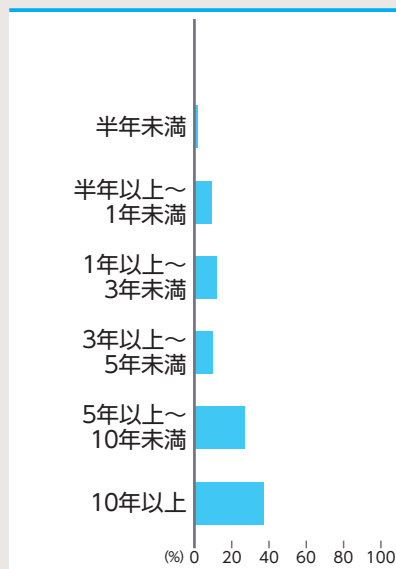
所有者別株式分布状況



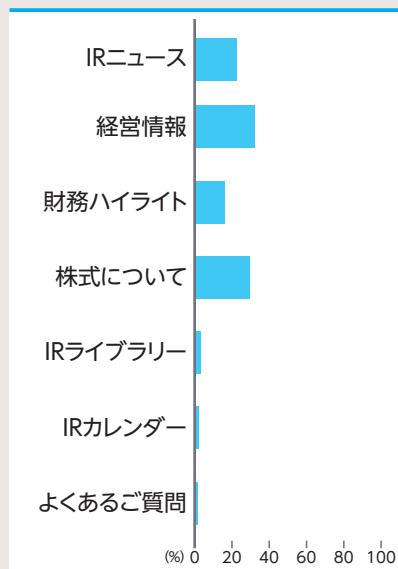
第156期中間期 株主通信アンケート結果のご報告

当社では、第156期中間期 株主通信において、ハガキ・インターネットを通じて、株主の皆様にはアンケートを実施いたしました。たくさんのご回答をいただき、誠にありがとうございました。
一部ではございますが、アンケート結果をご紹介します。

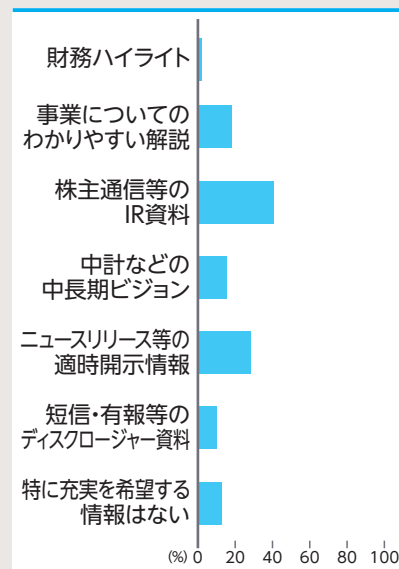
Q 当社株式をどのくらいの
期間保有されていますか？



Q 当社ホームページのどの情報を
利用されていますか？



Q ホームページで
充実を希望する情報は？



総合解説

今回はホームページの活用についてアンケートを実施しました。その結果、約70%の方が60歳以上の株主様でありましたが、半数の方がインターネットを定期的に利用されていることがわかりました。

皆様の貴重なご意見を参考にさせていただき、今後もホームページの充実を図っていきたく思います。また、皆様のご期待に応えるべく今後も堅実な企業経営に努めてまいります。

株主メモ

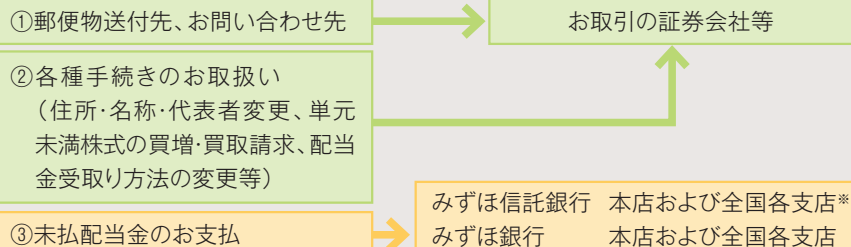
事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日	3月31日(中間配当を行う場合は9月30日)
定時株主総会	毎年6月中
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告(http://www.hodogaya.co.jp/) ただし、やむを得ない事由によって、電子公告 による公告をすることができない場合には、 日本経済新聞に掲載して行います。

上場株式配当等の支払いに関する通知書について

租税特別措置法の改正により、株主様に支払配当金額や源泉徴収税額等を記載した支払通知書を通知することとなっております。つきましては、支払通知書の法定要件を満たした配当金計算書を同封しておりますので、2015年の確定申告の添付書類としてご使用ください。なお、配当金を株式数比例配分方式によりお受け取りの場合、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われますので、2015年の確定申告の添付書類としてご使用いただける支払通知書につきましては、お取引の証券会社等へご確認ください。

株式事務に関するお問い合わせ先

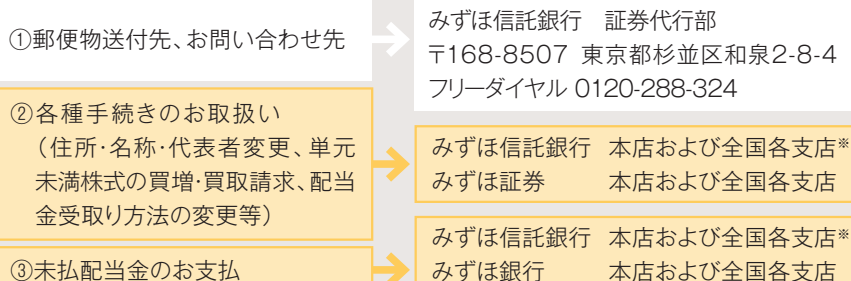
証券会社等に口座をお持ちの場合



■ 特別口座とは ■

2009年1月5日に実施された株券電子化までに、証券会社を通じて株券を証券保管振替機構(ほふり)に預けていない場合に、株主様の権利を保全するために当社がみずほ信託銀行に開設した口座のことです。特別口座では、単元未満株式の買増・買取以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続きを行っていただく必要があります。

証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)



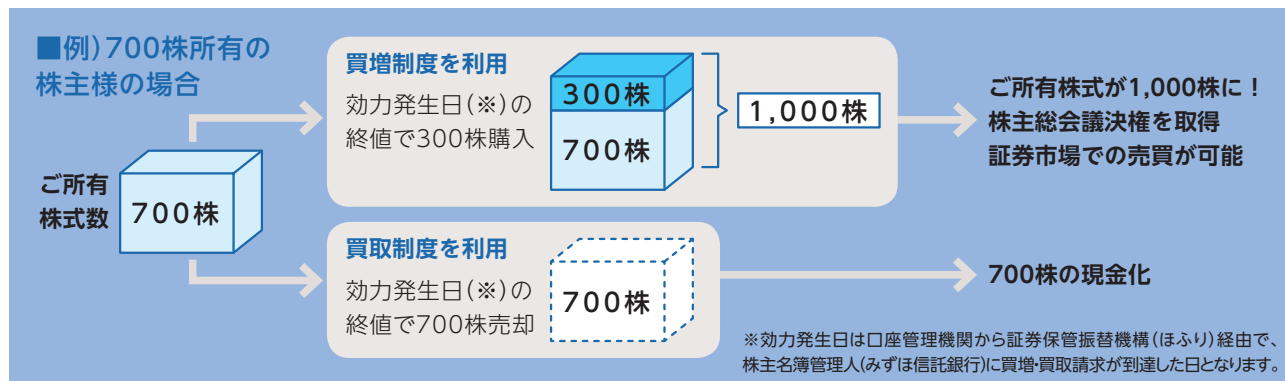
※トラストラウンジ除く

■ ご存じですか？ ■ 単元未満株式(1～999株)の買増・買取制度について ■

当社株式は、証券市場での売買、株主総会における議決権行使の権利が1,000株単位となっております。当社では、現在、単元未満株式をご所有の株主様に対し、単元未満株式を単元株式(1,000株)まで買い求めいただける「単元未満株式買増制度」を採用しております。

また、単元未満株式を売却できる「単元未満株式買取制度」もございますので、併せてご案内申し上げます。

なお、**買増・買取手続きにおける手数料は無料(当社負担)**とさせていただきますので、ぜひお申し込みください。お手続き・お問い合わせ先につきましては、「株式事務に関するお問い合わせ先」(18ページ)をご覧ください。



■ ホームページのご案内 ■

当社ホームページでは、個人投資家の皆様へ向けたページを新設いたしました。当社をより理解していただくための様々な情報を掲載しております。ぜひ一度ご覧ください。

ホームページアドレス <http://www.hodogaya.co.jp/>



■ IRカレンダー 2014年度予定 ■



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



環境にやさしい植物油
インキを使用して印刷
しています。



森林管理協議会(Forest Stewardship Council®)
で認証された適切に管理された森林からの原料を含
む、FSC認証紙を使用しています。